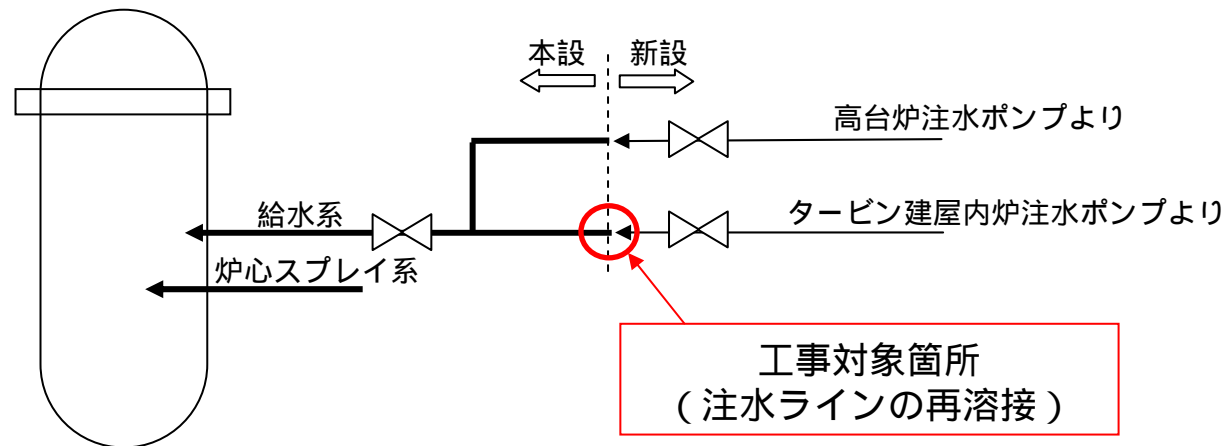


福島第一原子力発電所 1～3号機原子炉注水における給水系の信頼性向上工事について

< 参考資料 >
平成25年2月19日
東京電力株式会社

- 現状の原子炉注水の給水系において、線量の高い事故当初に設置され、施工方法の制約等から簡易的な方法で施工された場所があることから、長期使用を鑑みた信頼性向上工事を行う予定。
 - 2, 3号機は3月上旬から中旬を予定（1号機は実施時期調整中）
- 2, 3号機の工事では、給水系からの原子炉注水を行いながら作業することができないため、工事期間中、給水系からの注水を停止する必要がある（炉心スプレイ系での全量注水が必要）。そのため、工事開始前に2日間程度、炉心スプレイ系からの全量注水を実施し、原子炉等の冷却状態に有意な影響が無いことを確認する。
 - 2号機：2月20日～22日（予定） 3号機：2月25日～2月27日（予定）
- 1号機の工事では、給水系からの原子炉注水を行いながら作業することができるため、給水系の注水を停止する必要は現時点で無いものと考えているが、今後の工事方法の詳細検討により、必要に応じて同様の確認を実施する。



2/3号機 工事対象箇所概要図

原子炉注水系の給水系停止に伴う監視項目について

重点監視項目	監視頻度	判断基準
原子炉压力容器底部温度	毎時	65℃以下で安定した推移をしていること
原子炉への注水量	毎時	必要な注水量が確保されていること
原子炉格納容器ガス管理設備ダストモニタ	6時間	有意な上昇傾向が継続しないこと

(1) 運転上の制限 (80) に余裕をもった運用として、65℃ を監視のポイントとする。

■重点監視項目の考え方

- 炉心スプレイ系/給水系の配分変更であり、原子炉格納容器に流れる水の総量は変わらないため、压力容器底部温度を重点監視項目として確認を行う。
- 放射性物質の異常な放出量増加がないことを確認するため、ダストモニタの確認を行う。

■事前確認 (2日間) 結果をふまえた温度評価の実施

- 事前確認期間 (2日間) の原子炉関連温度の温度上昇率等から、工事期間中 (7日間) に压力容器底部温度が65℃を超えると予想される場合は、別途対応を検討する。

■事前確認 (2日間) の中止判断

- 事前確認期間 (2日間) 中に原子炉の冷却状態に異常が発生した場合には、事前確認を中止し、速やかに注水配分を元に戻す。

■工事 (7日間) 期間中の異常時の措置

- 炉心スプレイ系からの注水量の増加

